

新製品開発におけるフロント・エンド・ローディング

“本流技術の潜伏期間を見抜く目”

—新製品開発を支える精神力—

(株) ジョンケルコンサルティング 落合以臣

Front-end loading in new product development

“A keen eye for discerning the incubation period of mainstream technology”

- Mental power to support new product development -

Shigemi Ochiai, Jonquil Consulting Inc.

Keywords

研究開発・製品開発・連動・新用途開発・技術・イメージ・本流技術・潜伏期間・見抜く

Research and development, product development, linkage, new application development, technology, image, mainstream technology, incubation period, insight

研究開発した結果が、製品に連動して売れ筋の製品となることを誰もが目指すことは言うまでもありません。しかしながら、売れ筋という意味は、実際の市場のどこに狙いを定めて研究開発を行なうかで研究開発に伴うリスクの大きさが異なります。開発の難易度が高い研究開発では、基礎的研究からスタートすることもあるのでリスクは大きいといえます。ところが、従来の製品に起点を置いた、いわゆる転用、あるいは新用途開発に狙いを定めた研究開発では、今までの技術に立脚して進めることができる

のでリスクはそれほど大きくないと言えます。これらの関係を示したのが、右図となります。右図は、横軸に研究開発の時間的要素、縦軸に関心度として表現しています。基礎研究は、原理・現象など学術的評価を対象としているので、製品開発への連動はほど遠いですが、将来に向けての待望論が騒がれるために関心度としては高くなります。ところが、月日が経過するにつれて、待望論がいつ日の目を見るのかといった不安から一挙に悲観論へと世相が変わって

してしまいます。この期間が長いことが多いので、ほとんどの研究者と経営者は諦めの境地に遭遇することになります。したがって、関心度は最も低くなります。これを Death of Valley、つまり“死の谷を渡る”と呼ぶことにしています。この Death of Valley が短ければ短いほど研究者にとっても経営者にとってもいいわけですが、実際はなかなか思ったようには行かないものです。この Death of Valley を技術の潜伏期間として、いかに潜伏期間を短くすることができるかが課題となります。潜伏期間を短くするためには、製品をイメージして研究開発を行なった方が製品開発の効率をよくすることになります。したがって、製品をイメージした研究開発を行なうことの方が、本流技術の潜伏期間を見抜くことができることになるわけです。つまり、研究開発にはスケジュールが引けないという人が多いようですが、製品をイメージすることによって、具体的な研究開発のスケジュールを引くことができるといっても過言ではないでしょう。

こうした変遷を経たうえに、実用化の時代、発展の時代が到来するので、当然のことながら関心度は高くなります。このようなことをまとめたものが、上手として表現しています。

重ねて述べれば、新規性の高い製品市場を駆逐するためには、相当のエネルギーと投資が伴うことを忘れてはなりません。どこの経営者も頑張った副産物として“新たな市場を踏破することができれば”と口に出す人も多いようですが、その裏に隠されているリスクの大きさを把握していないことが多いと言えます。ただ、今後は現状維持路線、半歩先を歩くような市場だけでは、安定した企業運営を願うことは難しくなるのではないのでしょうか。したがって、本流技術の潜伏期間を見抜くことが、いかに重要であるかということがわかるはずですよ。

本流技術の潜伏期間を見抜く目

